

2016年4月号

横須賀小川町教会新聞No.131  
2016年4月1日発行

# 小川町の鐘

発行者 日本キリスト教団  
横須賀小川町教会  
牧師 寺田信一  
住所 横須賀市小川町7  
電話 046-822-2463  
<http://ogawachurch.sakura.ne.jp>

## 第25回

### 奇跡のひと～アン・サリヴァン

牧師 寺田 信 一

ヘレン・ケラーという女性を知らないひとはありますまい。高熱のため1歳半の時に目、耳、声の三重の身体的障害を負いながら、後に教育家、社会福祉家、作家として世界中で活躍したひとです。このひとの生涯を描いた映画に『奇跡の人』という作品がありますが、実はその主人公である「奇跡のひと」とはヘレン・ケラー本人ではなく、ヘレンを言葉の世界へと連れ戻した家庭教師、アン・サリヴァン先生のことなのです。

アン・サリヴァンは1866年4月14日、農民の娘としてアメリカのマサチューセッツ州に生まれました。3歳の頃に目の病気（トラコーマ）に罹り、その悪化によって失明します。更に9歳の頃、母と弟の死が重なったために鬱状態に陥り、病院でふさぎ込む日々を送りました。けれども、そんなアン少女のもとを一人の看護師（掃除婦？）が毎日会いに来てくれて、聖書の話、信仰の話をお聴かせしてくれたのだそうです。そして、この「ことば」によって、アン少女は徐々に心を開いていき、盲学校へ進むことになりました。

盲学校在学中のアンは、数度に亘る手術のおかげで視力のある程度取り戻せました。また、視覚と聴覚との障害を克服した友人との出会いもあり、これらの経験が後にヘレン・ケラーの教育に生かされることになるのです。ちなみに、そのヘレンとの出会いは、電話の発明者アレクサンダー・グラハム・ベルの伝手によってなされました。

1887年3月3日、アンはヘレンにとってのサリヴァン先生となります（写真）。が、当時のヘレンは気性が荒く、怒っている時は嘸ったり叫んだり、上機嫌の時には笑いを止められないなど、自分を制御できなかったそうです。そこで、サリヴァン先生は、ヘレンに言葉を教えるために、「物にはすべて名前がある」ということを教えることにしました。その最初の“もの”の名前は“water”、つまり水でした（ちなみに、初めてつづりを書いた単語は“doll [人形]”）。その後、ヘレンは幾つもの言葉を

覚えるようになり、そのうちに「雲」や「愛」といった、触れないものにも名前があることを理解できるようになるのです。そして何と現在のハーバード大学へ進学。卒業後は自伝も出版し、多くの社会活動を担うひとにまで成長して行きました。



音と光が遮断されたヘレン・ケラーが言葉とコミュニケーションを獲得できたのはサリヴァン先生の忍耐や努力によるものです。まさにサリヴァン先生こそ「奇跡のひと」と言えましょう。

サリヴァン先生は1936年10月20日に70歳で亡くなりました。つまり、今年がサリヴァン先生の没後80年、そして生誕150年の記念年なのです。

この年、私が強く思うのは、このサリヴァン先生のように「ことば」によるコミュニケーションを確立するように努めたい、ということです。現代は物質的に便利になっている反面、メディアによる音と光の氾濫、親子や周囲との対話不足から話し言葉も書き言葉も十分に獲得されず、コミュニケーションがうまくとれない子どもたちが増えています。また、職場の環境や人間関係から心の病気になったり、自ら命を絶ったりする大人も増えています。そこには「ことば」によって伝えるべきことを伝えないうまま、或いは聴き取らないまま、なおざりにした結果があるのではないのでしょうか。

そこで例えば一度、スマートフォンから手を放してみませんか？ 相手と向かい合い、話し言葉を交わしませんか？ ひととは水や空気が無ければ生きていけませんが、同じように「ことば」が無くて生きてはいけない存在なのですから。



教会創立 64 周年記念  
パイプオルガンコンサート  
6/19(日)

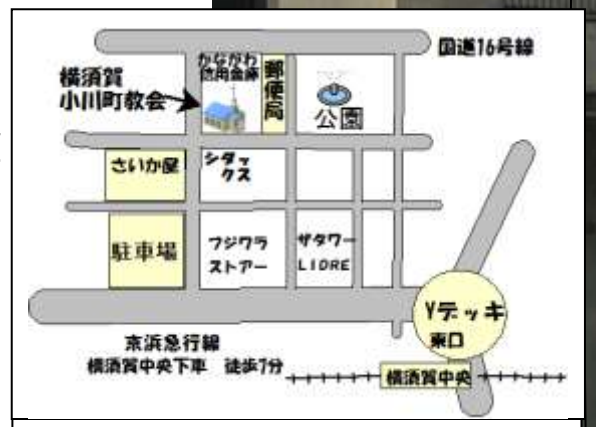
15:00 開演 開場 14:30 入場無料  
出演 徳岡めぐみ  
会場 横須賀小川町教会 礼拝室

◆創立六十四周年記念礼拝  
六月五日(日) 午前10時30分  
説教 寺田信一牧師

◆ペンテコステ礼拝  
五月二十五日(日) 午前10時30分  
説教 大久保昭教

・教会学校  
毎週日曜日 午前九時から10時までのための礼拝があります。

・主日礼拝  
日曜日 午前10時30分



教会にはエレベーターが設置されています。また、身障者用トイレも整備されています。視覚障害の方には、点字聖書が用意されています。